

## 巻頭言

『自由学園年報』第17号が刊行され、多くの皆様に自由学園の教育の一端を活字でご覧いただけることをありがたく思います。

2012年度は前年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響により、那須農場を教育活動に利用できなかったことがあります。それ以外はおおよそ計画されていた活動を行うことができました。その中で全校一丸となって創り出した第30回自由学園美術工芸教育発表会が最も大きな出来事でした。

この『年報』では、その報告会について、美術担当の教師からの報告があります。学園の敷地全体が会場となった展覧会の様子を少しでも感じ取っていただき、「自由学園の感性教育」における美術工芸の役割をあらためて思っていたいただくと幸いです。

今年は、嬉しいこととして、最高学部の学生の研究報告に加えて、教師の研修・研究報告が2篇あることがあげられます。それぞれが日頃努力して追究しているテーマについて、まとめられ、皆さんにお読みいただけることは嬉しいことです。引き続き多くの教師が授業研究をまとめて報告できることを願います。

美術工芸教育発表会の原稿をまとめるのに時間がかかり、この『年報』の発行が例年より遅れたことをお詫び申し上げます。日常の授業等で忙しい中、編集作業を進めてくださいました、編集委員の先生方、また、原稿を寄せてくださった先生たちに心から感謝申し上げます。

この『年報』が自由学園の教育の記録として、多くの方々にお読みいただき、自由学園の教育への理解を深めていただく助けとなれば幸いです。

2013年12月

学園長 矢野恭弘